

令和2年度板橋区立図書館指定管理業務事業報告について

令和2年3月10日、第7回教育委員会において承認を得た「東京都板橋区立図書館の管理運営に関する令和2年度協定の締結並びに令和2年度事業計画の承認（議案第18号）」について、下記により令和2年度の事業の実施状況を報告する。

記

1 指定管理施設及び事業実施内容

1) 板橋区立図書館（赤塚・高島平・成増図書館）事業報告概要 …資料1

2) 板橋区立図書館（清水・蓮根・西台・志村図書館）事業報告概要  
…資料2

3) 板橋区立図書館（氷川・東板橋・小茂根図書館）事業報告概要  
…資料3



## 令和 2 年度板橋区立図書館（赤塚・高島平・成増図書館）事業報告概要

中央図書館

指定管理者 株式会社図書館流通センター

指定管理期間 平成 30 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日まで（5 年間）

管理施設名 赤塚図書館、高島平図書館、成増図書館

## 1. 管理業務運営体制

(1)指定管理者担当部門 首都圏営業部

(2)現場従業員

・雇用形態 契約社員（館長・副館長・業務責任者・一般従事者）

(3)組織・指示・命令系統

・本部-統括責任者-館長-副館長-業務責任者-一般従事者

(4)人員配置

() 内は計画時の人数

図書館	赤 塚	高島平	成 増
館 長	1 名(1 名)	1 名(1 名)	1 名(1 名)
副館長	2 名(2 名)	2 名(2 名)	2 名(2 名)
業務責任者	2 名(2 名)	2 名(3 名)	2 名(2 名)
一般従事者	14 名(12 名)	25 名(25 名)	18 名(17 名)
計	19 名(17 名)	30 名(31 名)	23 名(22 名)
司書の割合	52.6%(50%)	50.0%(50%)	56.5%(50%)

## 2. 入館・貸出状況

各館の入館者数・資料貸出点数は、以下のとおりである。

図書館名	入館者 (人)	前年比 (%)	貸出 利用者 (人)	前年比 (%)	貸出数 (点)	前年比 (%)
赤 塚	157,725	59.5%	55,660	80.0%	205,016	83.4%
高島平	308,113	62.9%	110,182	75.8%	333,665	78.1%
成 増	178,495	71.7%	82,262	82.8%	241,260	85.8%

緊急事態宣言発出に伴う休館期間 令和 2 年 4 月 8 日～5 月 27 日（50 日）

工事期間による臨時休館は無し

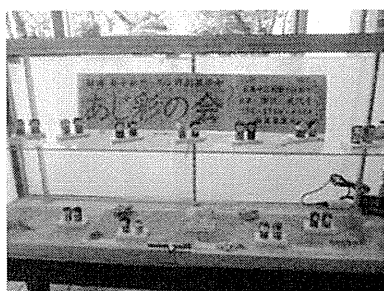
## 3. 図書館事業の実施状況

おはなし会・映画会・学校連携事業・地域連携事業・展示を、図書館サービスとして以下のとおり実施した。

	赤 塚	高島平	成 増
おはなし会	26回 46名	10回 38名	23回 96名
R1 年度	86回 634名	84回 466名	69回 1,154名
映画会	0回 0名	1回 3名	0回 0名
R1 年度	20回 200名	21回 367名	20回 265名
学校連携	5校 40回	9校 57回	5校 54回
R1 年度	7校 95回	17校 123回	8校 74回
地域連携	16施設 157回	15施設 198回	51施設 224回
R1 年度	23施設 207回	19施設 176回	48施設 314回
展示	160回 5,711点	91回 4,479点	68回 3,873点
R1 年度	177回 3,825点	129回 10,268点	79回 3,633点

※学校数、施設数は実数

高島平、成増図書館に設置のガラスケースでの展示



## 4. 自主企画事業（読書推進・生涯学習等）の実施状況

図書館利用促進や生涯学習の機会提供のため、感染防止対策を講じたうえで様々な企画事業を以下のとおり実施した。

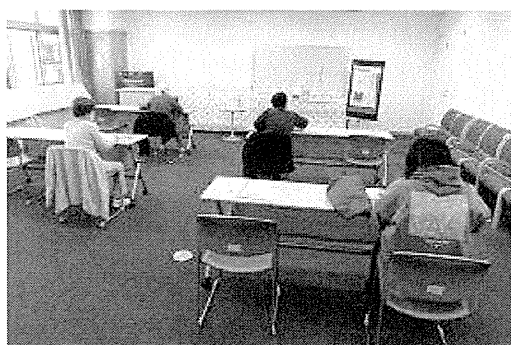
## (1) 図書館利用促進事業

図書館	赤 塚	高島平	成 増
R2 事業報告	15 事業 19 回 716 人	12 事業 16 回 500 人	13 事業 15 回 384 人

①3 館共通：YA 向け企画「十代の読書ノススメ～座談会～」



②赤塚図書館：「アマビエをつくろう」ほか



③高島平図書館：「みんなにエール！」ほか



## ④成増図書館：

『図書館スタッフおすすめセット』でうち時間を楽しもう」ほか



## (2) インターネット閲覧サービス

データベース：聞蔵Ⅱテキスト→（赤塚・高島平・成増）

ポプラディアネット→（赤塚・高島平）

日経テレコン 21→（成増）

	赤塚	高島平	成増
インターネット閲覧サービス 利用数（前年実績）	1,235 件 (3,264 件)	1,982 件 (3,985 件)	1,950 件 (3,281 件)

## 5. いたばしBORONIA子ども絵本館の資料活用

ミニ・BORONIAブックフェアの実施（成増は中止）や、資料を使った展示の実施等でいたばしBORONIA子ども絵本館の資料に触れる機会を提供した。

①赤塚図書館：展示「くも」15冊など年5回実施

②高島平図書館：展示「なつがきた」5冊など年2回実施

③成増図書館：展示「ペットといっしょ♪」20冊など年2回実施

## 6. 収支状況

## 収入

項目	予算額	決算額
指定管理料	円	円
インターネット閲覧サービス プリントサービス料	円	円
対価の徴収を伴う事業収入	円	円
古紙回収料に伴う収入	円	円
合計	円	円

## 支出

項目		予算額	決算額
管理運営経費	人件費	円	円
	施設管理経費	円	円
	企画事業費	円	円
	事務諸経費	円	円
清算経費	特色ある図書館づくりの資料購入費	円	円
	逐次刊行物・視聴覚資料・紙芝居等の資料購入費	円	円
	地域連携経費	円	円
	修繕・工事費	円	円
	備品購入費	円	円
本社経費		円	円
合 計		円	円

## 差引

項目	予算額	決算額
利益	円	円

## 7. 令和2年度重点目標への取組

## ① 「絵本のまち板橋」のイメージを図書館から地域に根付かせる取組

赤塚図書館では、えほん列車でいこう！やおうちでクリスマスなどのイベントで絵本を前面に打ち出した。またこどもとしょかんだより等に「絵本のまち板橋」を書き加え浸透を図った。毎月末には7保育園、3幼稚園にこどもとしょかんだよりを配布しており、お散歩コースに図書館を加えてもらうようにアプローチを掛けている。

高島平図書館でも、「絵本のまち板橋」というイメージを図書館利用者に知って頂くため、館内掲示の創意工夫や図書館だより・チラシには必ず「絵本のまち板橋」のイメージを書き加え、利用者への浸透を図った。絵本の所蔵や選書はもとより、子供たちが本好きになる出発点としての「絵本の読み聞かせ」は非常に重要と考え、コロナ禍が収束すれば親子向け読み聞かせ講座・おはなしボランティアの育成講座等を開催する。

成増図書館では、「小学生向け絵本づくりワークショップ」だけでなく、大変好評な「みんなでつくろう！てづくりえほん」、図書館スタッフおすすめセットの貸出、「みんなでつくろう！どくしょの木」等、人を集めない企画でアピールした。また赤塚、高島平同様、としょかんだよりやイベントちらしにオリジナルロゴを掲載し、目に見えるかたちで発信した。

②東京2020オリンピック・パラリンピックを区民へ記録、記憶に残す取組  
※延期

## ③図書館の最新の資料情報、地域や学校との連携、魅力的な取組をHPだけでなくSNSにより適時、実効的な発信を行う取組

赤塚図書館ではブックトークや調べる学習コンクール出張授業等の学校連携は実施できなかった。また地域連携においても団体貸出及びおはなし会の開催のみであった。新しい案件は赤塚ジモパ実行委員会が主催したイベント「赤塚ジモパ」への映像によるリモート参加である。人と人の接触を減らさなければならぬコロナ禍においてはリモート参加による情報発信は有効な手段である。今後も地域連携先でリモート対応が可能な場合は積極的に取り入れていく。



高島平図書館では、既に運用している facebook を中高年層や外部組織（地域企業・地域団体・学校等）に向けてアピール強化を行った。また、高島平地域のオンラインイベントに参加し、図書館 PR 及び板橋区在住作家の紙芝居動画の投稿を実施した。今後は、ツイッター・インスタグラムを取り入れ 10～20 代の若年層・子育て世代に向けての発信や、高島平図書館キャラクター「りんだん」を使った PR 動画作成を検討する。

成増図書館では、コロナ禍で通常よりもサービスの提供に制限のある中で、Facebook にて定期的に大人向け、若い方向け、児童向けでスタッフおすすめ本を情報発信した。「支え合い会議成増」や板橋区小地域ケア会議出席もオンラインで参加し、コロナ禍の図書館状況やサービスを新しいかたちで発信することが出来た。

## 8. 指定管理者の自己評価

指定管理者が実現すべき基本理念、重点目標及びサービス水準を意識した取組を 3 館で協力して実施し、図書館サービスの維持向上に努めた。新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休館やサービス一部休止等による影響は大きく、入館者数等での大幅な減少は避けられなかった。

赤塚図書館では、感染者を発生させないという強い信念で感染症対策を工夫しながら運営にあたった。高齢者層は感染回避のため、学生層は学習室開放の取り止めのため等、入館者数は減少したが、貸出利用者や貸出点数の落ち込み幅は小さく、来館回数を減らして貸出を受けている実態がわかる。

通常より自主企画事業を開催出来なかったが、YA 世代の読書推進企画として毎年恒例の赤塚第三中学校連携企画は実施し、進行の文芸部生徒や参加者の満足度は高かった。YA 世代の読書活動推進のためにも開催を継続する。今後も参加人数を大幅に減らすことや下赤塚地域センターを利活用するなどして事業を再開していきたい。

学校連携では、人との接触を極力減らすことが重要と判断し、また時期によって学校の意向もあり、調べる学習コンクール出張授業やブックトークなどができなかった。学校側と密接に連携し、可能な図書館サービスを拡げていく。

地域連携についても同様、地元サークルや企業、公共機関との事業も中止となった。地域に密着し、親しまれる生涯教育施設としての役割を果たすため、接触を減らしつつ可能なサービスの提供に知恵を絞っていく。

高島平図書館では、周辺地域が板橋区平均高齢化率の倍で推移している。近年の来館困難者の増加や利用者の来館回数の減少に加え、コロナ禍でより減少

した。児童向けイベント参加者が減少しているように、感染を警戒して親子連れの利用者も減少した。イベント協力者も高齢者が多く、活動を中止する団体も多かった。滞在時間 1 時間を目途としているため、一般向けのイベントは通常より開催出来なかった。

しかし、地域オンラインイベントに参加し、紙芝居動画、館内案内動画及びインタビューにて PR を行ったり、来館者に一言エールを書いてもらう企画など、コロナ禍に対応した活動も徐々に開催することが出来た。

次年度は引き続き「with コロナ」を念頭に、図書館利用を控えている方に足を運んで頂くことを前提に行動していく。図書館ボランティアやイベント協力団体等への「with コロナ」の理解と協力を要請し、安心・安全で活動できる図書館環境づくりを徹底する。

板橋区おとしより健康福祉センター・東京都健康長寿医療センター・高島平おとしより相談センターと図書館の連携は、新型コロナが収束次第再開し、地域に特化した図書館サービス提供が可能と確信している。

成増図書館では、感染症の拡大による館内サービスの縮小だけでなく、学校・地域との連携も難しい状況であったが、連携施設へ定期的に訪問し、それぞれの状況を共有し合い、連携継続に努めた。特に板橋区版 AIP 推進事業「支え合い会議成増」を中心に、図書館掲示板の装飾物を作ってもらい集会開催等、実施回数は減ったが高齢者の交流の場を創出した。板橋区小地域ケア会議（オンライン）に出席し、図書館活動を紹介する等、社会環境に適応したかたちで情報発信及び地域貢献を行った。また、おはなし会に参加出来ない保育園に対しては出張おはなし会を複数実施し、大変喜ばれた。

館内サービスでは、ステイホームを応援する資料展示や自主企画事業、人を集めない投票型イベントを実施した。また SNS でのおすすめ本紹介の定期的な発信で読書推進に努めた。特色を生かし、区立美術館 PR 展示や区内企業製品展示、連携事業も継続した。

アリエスビル自衛消防活動中核要員（館長）など、防災センター、各テナントと協力した安全管理体制の構築に貢献した。

引き続き、利用者及び従業員の安全を最優先とした図書館運営と社会情勢に合わせたサービスの検討及び提供に努める。

3 館において、それぞれ「布絵本」の活用や「しかけえほん」「てづくりえほん」の事業実施、「小学生向け絵本づくりワークショップ」の開催で「絵本のまち 板橋」の推進に努めた。

## 9. 所管課の評価

### (1) 評 価

新型コロナウイルス感染拡大防止を目的とした緊急事態宣言の発出による休館のため年間開館日数が赤塚 282 日（当初予定比 84.18%）、高島平 282 日（当初予定比 84.18%）、成増 288 日（当初予定比 85.97%）と大幅に減少している。このことに伴い、入館者数、貸出し利用者及び貸出点数等も大幅に減少している。

入館者数、貸出利用者数及び貸出点数の目標値をそれぞれ開館日数の当初予定比で乗じて改めて実績と比較（休館を加味した評価）してみると入館者数は大幅に減少している点に変化ないが、貸出し利用者及び貸出点数については比較的減少幅が少なくなっている。

休館を加味しても入館者数が目標に大きく届かない要因として新聞・週刊誌等の閲覧不可及び閲覧席を減少しての開館等したことが考えられる一方、貸出利用者数及び貸出点数は入館者数ほどの減少とならなかった要因は、コロナ禍における外出自粛要請等により家庭での読書が定着したことが要因と考えられる。

事業面では映画会、おはなし会等は事業の中止が多かったため、開催回数、参加者数は目標に届いていないが、各館とも資料の展示方法や内容を工夫し家庭での読書推進と貸出冊数の増加を図っている。

高島平図書館は、地域のオンラインイベントへの参加や動画を使った PR などコロナ禍に対応した活動を実施し、成増図書館は、板橋区小地域ケア会議（オンライン）への出席、3 密に配慮したイベント実施、保育園への出張おはなし会など、これまでの枠組みにとらわれず新たな事業に取り組む姿勢は評価できる。

赤塚図書館は、小中学校との連携事業が困難な中で、赤塚第三中学校との連携計画は継続して実施し、YA 世代の読書活動推進を図ったことは評価できる。

以上のことから、令和 2 年度については、新型コロナウイルス感染症の影響を大幅に受けており非常に困難な状況下での図書館運営となった一方で、創意工夫を重ね新たな企画事業を開催する等、コロナ禍における新しい図書館運営を行えたことは評価できる。

なお、主管課モニタリングにおける二次評価では、経営改革推進課の方針に基づき、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として中止した事業等を加味した評価により実施する。

また、休館による事業中止等の清算については、各種講座等の中止による講師謝礼金 〇〇〇〇 円が不用となったが、イベント会場の環境整備や SNS による情報発信強化を行い 〇〇〇〇 円の経費が生じ、これを相殺したため、戻入は生じないことを確認した。

## (2) 今後の課題

令和 2 年度に実施した板橋区立図書館指定管理者評価委員会において「改善すべき事項」として、レファレンス業務の利用者への周知、親子向けイベント、赤ちゃん向けおはなし会等の実施方法の検討、利用者の高齢化への対応、の 3 点が挙げられている。

この評価結果の改善に向け、Facebook によるレファレンス事例紹介、保育園や幼稚園のニーズに応じたイベント開催の検討、高齢者施設との連携を充実させる等の計画案が提出されている。

この計画案に基づき、改善を図るとともに、コロナ禍における図書館運営を着実に推進することが肝要である。

令和 2 年度板橋区立図書館（清水・蓮根・西台・志村図書館）事業報告概要  
中央図書館

指定管理者 株式会社ヴィアックス  
指定管理期間 平成 30 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日まで（5 年間）  
管理施設名 清水図書館、蓮根図書館、西台図書館、志村図書館

## 1. 管理業務運営体制

(1) 指定管理者担当部門 図書館事業本部

(2) 現場従業員

雇用形態 図書館正社員・契約社員・パート（館長・副館長・業務責任者・一般従事者）

(3) 組織・指示・命令系統

本社（管理運営本部＝統括部長・地域担当課長）館長－副館長－業務責任者－リーダー－スタッフ

(4) 人員配置

( ) 内は計画時の人数

図書館	清 水	蓮 根	西 台	志 村
館 長	1 名 (1 名)	1 名 (1 名)	1 名 (1 名)	1 名 (1 名)
副館長	3 名 (3 名)	4 名 (4 名)	4 名 (4 名)	5 名 (5 名)
リーダー	1 名 (1 名)	1 名 (1 名)	1 名 (1 名)	2 名 (2 名)
スタッフ	8 名 (8 名)	14 名 (13 名)	13 名 (12 名)	16 名 (15 名)
計	13 名 (13 名)	20 名 (19 名)	19 名 (18 名)	24 名 (23 名)
司書の割合	53.8% (50.0%)	70.0% (55.0%)	52.6% (50.0%)	58.3% (55.0%)

## 2. 入館・貸出状況

各館の入館者数・資料貸出点数は以下のとおりである。

図書館名	入館者 (人)	前年比 (%)	貸出数 (点)	前年比 (%)
清 水	65,774	70.1%	104,713	100.8%
蓮 根	144,239	74.7%	218,280	81.4%
西 台	111,193	73.2%	198,712	92.3%
志 村	154,178	66.3%	293,605	88.9%

緊急事態宣言発出に伴う休館期間 令和 2 年 4 月 8 日～令和 2 年 5 月 27 日（50 日）

工事期間による臨時休館 西台図書館 令和 2 年 9 月 13 日～令和 2 年 9 月 19 日（7 日）

志村図書館 令和 2 年 12 月 1 日～令和 2 年 12 月 6 日（6 日）

## 3. 図書館事業の実施状況

おはなし会・映画会・学校連携事業・地域連携事業・展示を、図書館サービスとして実施した。

	清 水	蓮 根	西 台	志 村
おはなし会	0 回 0 名	43 回 309 名	47 回 288 名	11 回 89 名
元年度	67 回 441 名	74 回 596 名	91 回 1,077 名	64 回 930 名
映画会		10 回 79 名	6 回 47 名	0 回 0 名
元年度		20 回 185 名	20 回 268 名	22 回 328 名
学校連携	3 校 30 回	8 校 61 回	8 校 80 回	5 校 113 回
元年度	4 校 34 回	9 校 62 回	8 校 75 回	8 校 71 回
地域連携	6 施設 32 回	20 施設 135 回	8 施設 100 回	11 施設 51 回
元年度	8 施設 44 回	22 施設 196 回	11 施設 119 回	11 施設 83 回
展示	79 回 3,786 点	69 回 5,611 点	54 回 4,334 点	65 回 3,312 点
元年度	91 回 4,661 点	80 回 6,563 点	67 回 5,076 点	68 回 3,620 点

※清水図書館：工作会 蓮根図書館：りんりんおはなし会

西台図書館：スペシャルおはなし会

※学校数、施設数は実数

## 4. 企画事業の実施状況

図書館利用促進や生涯学習の機会の提供のため、図書館サービス以外に、様々な自主事業を実施した。

## (1) 図書館利用促進事業

図書館	清 水	蓮 根	西 台	志 村
R2 事業報告	19 事業 20 回 1,601 人	26 事業 31 回 4,802 人	13 事業 14 回 1,771 人	23 事業 28 回 9,487 人

- ① 読書週間(図書館員が選ぶ 100 冊・スタンプラリー等) (4 館合同)
- ② 「しみずであそぼう! 飛行機」「なかよしひろば」ほか (清水)
- ③ 「～蓮根第二小学校図書委員～手作り絵本展」、「七夕」ほか (蓮根)
- ④ 「にしだい手芸教室」、「徳丸福祉園作品展」ほか (西台)
- ⑤ 「わくわくラリー」、「私の時間・志村図書館合同作品展」ほか (志村)

## (2) インターネット閲覧サービス

データベース：ヨミダス、ジャパンナレッジ、ポプラディアネット

	清 水	蓮 根	西 台	志 村
インターネット閲覧サービス利用数	694 件	1,081 件	1,618 件	1,337 件

5. いたばしボローニャ子ども絵本館の資料活用

(1) 「ミニ・ボローニャ・ブックフェア」中止、展示会「大人のための世界の絵本展」20冊（清水）

(2) 「ミニ・ボローニャ・ブックフェア」中止、「特別展示(2回)」計176冊（蓮根）

(3) 「ミニ・ボローニャ・ブックフェア」34冊、「ミニ展示(3回)」計15冊（西台）

(4) 「ミニ・ボローニャ・ブックフェア」64冊（志村）

その他の事業

・蓮根「ねこの絵本展」

・西台「ミニボロ・スタンプラリー」

（ミニ・ボローニャ・ブックフェアで展示している絵本にちなんだスタンプラリー）

## 7. 収支状況

## 収入

項 目	2 年度予算額	決算額
指定管理料	円	円
その他収入(古紙回収等)	円	円
合 計	円	円

## 支出

項 目	2 年度予算額	決算額
管理 運営 経費	人件費	円
	施設管理経費	円
	企画事業費	円
	事務諸経費	円
清算 経費	特色ある図書館づくりの資料購入費	円
	逐次刊行物・視聴覚資料・紙芝居等の資料購入費	円
	地域連携費	円
	修繕・工事費	円
	備品購入費	円
合 計	円	円

## 差引

項 目	2 年度予算額	決算額
利益等	円	円

※利益等の内訳については株主総会後に確定する。



## 8. 令和2年度重点目標への取組

### (1) 絵本のまち板橋に関する取組の充実

各図書館とも、事業の実施数については減少しましたが、「親子読み聞かせ講座」については、定例のおはなし会参加者に昨年の講義内容をまとめたレジュメとブックリストを配布するなど、工夫した形で実施しました。また、事業の広報活動で作成したポスターには弊社で作成したロゴを入れるなど、様々な形で「絵本のまち板橋」という文言をPRしました。絵本館資料を活用した展示も引き続き好評で、様々な形で「絵本のまち板橋」に関する取組が行えました。引き続き、効果的な広報活動ができるように模索していきたいと考えています。

### (2) 東京オリンピック・パラリンピックを区民へ記録、記憶に残す取組

清水図書館で「健康情報講座」、西台図書館では「健康体操教室」を実施しました。それぞれ実施予定のオリンピックにも関連させた内容で実施することができました。また、志村図書館では公文書館から借用した資料の展示で「あの日をたずねて、番外編～板橋にオリンピックがやってきた！～」を実施しました。前回のオリンピックの写真とともに、今回のオリンピックの機運を盛り上げるものになりました。

### (3) 図書館の最新の資料情報、地域や学校との連携、魅力的な取組をHPだけでなくSNSにより適時、実効的な発信を行う

今年度は図書館の運営状況や開館状況をホームページやSNSで確認する方も多かったようで、閲覧者数の数字にも表れました。また、昨今の状況を鑑みて、事業等の情報だけでなく、感染防止策について定期的に投稿しました。事業についてはそれぞれの様子や感想を載せるなど、今回参加しなかった方へのPRとなるような内容にしました。

## 9. 指定管理者の自己評価

入館者数については4図書館とも減少となった。休館期間があったことも原因だが、サービス再開後も来館頻度を減らし一度に借りる冊数を増やす等の利用方法の変化が見られたことも原因と考えられる。そのため貸し出し冊数については入館者数ほどの大幅の減少は見られず、前年度比で横ばいとなった。また、中央図書館の休館期間となった12月以降は、近隣の清水図書館、志村図書館では貸し出し冊数の大幅な増加がみられた。各図書館においては、これまで中央図書館しか利用したことがない方が初めて地域館を利用されたことも多かったようなので、こうした方が中央図書館開館後も継続して利用していただけるように、魅力的な運営方法を心掛けていく。

事業については、各図書館とも感染症拡大防止策を講じながらの実施となっ

た。定例事業についても中止と再開を繰り返しており、これまで通りの運用が困難となった。実施場所や実施頻度を変更して、十分な換気、参加者同士の距離が取れる場所を確保して実施した。企画事業については、少人数での事業や展示を中心に実施した。蓮根図書館では徳丸福祉園と連携した「徳丸福祉園作品展」、西台図書館ではボランティアを講師に招いた「手芸講座」を実施するなど、回数は少ないながらも各団体と連携した取り組みを行うことができた。

学校連携については、学校からの依頼が減ってしまったため、ブックトークや懇談会の実施回数は減った。今後の連携については、各図書館とも打ち合わせを行い検討していく。ブックトークの依頼があったところからは、感染症拡大防止策として、少人数で複数回に分けて実施するなど、これまでの方法とは違うやり方で実施した。

地域連携についても同様で、訪問を伴う事業については各施設から依頼を断られることが多かった。一方で団体貸出については前年度比で同じ、もしくは前年度比を上回る回数で依頼を受けた。前述の通り西台図書館では徳丸福祉園から作品を借用した作品展を行うなどの連携も行うことができた。引き続き、施設の希望に応じた連携方法を継続して行っていけるようにコミュニケーションをとっていきたい。

また、毎年発行しているパスファインダーは過去のもの情報を一新した更新版を発行、YA向けブックリストも作成した。

今年度は、様々な場面でこれまでとは異なる実施方法を求められた。各図書館の施設や設備に応じた対応方法を検討して、引き続きニーズに応じたサービスの提供に努めていきたい。

## 10. 所管課の評価

## (1) 評価

新型コロナウイルス感染拡大防止を目的とした緊急事態宣言の発出による休館のため年間開館日数が清水 288 日（当初予定比 85.97%）、蓮根 282 日（当初予定比 84.18%）、西台 275 日（当初予定比 82.09%）、志村 276 日（当初予定比 82.39%）と大幅に減少している。このことに伴い、入館者数、貸出し利用者及び貸出点数等も大幅に減少している。

入館者数、貸出し利用者数及び貸出点数の目標値をそれぞれ開館日数の当初予定比で乗じて改めて実績と比較（休館を加味した評価）してみると入館者数は大幅に減少している点に変化ないが、貸出し利用者及び貸出点数については減少幅が少なくなっており、志村図書館の貸出点数については、目標値を上回る実績（目標値 348,960 点×82.39%=287,508 点、実績 293,605 点）となっている。

休館を加味しても入館者数が目標に大きく届かない要因として新聞・週刊誌等の閲覧不可及び閲覧席を減少しての開館等したことが考えられる一方、貸出し利用者数及び貸出点数は入館者数ほどの減少とならなかった要因は、コロナ禍における外出自粛要請等により家庭での読書が定着したことが要因と考えられる。

事業面を見ると、映画会、お話し会等は、事業開催を中止した期間が長く開催回数、参加者数は軒並み目標値を大きく下回っているが、事業開催の際には、感染防止対策を十分に実施して開催している。また、減少した閲覧席のスペースを活用した展示等、各館で工夫している。

このような各館での取組みも貸出し利用者数及び貸出点数の数値に貢献していると考えられ引続き取組んでいくことが肝要である。

更に、地域連携及び学校連携においても開催が困難な状況の中でも連携先の希望に応じ継続して開催している。連携事業については、継続して開催することが信頼関係に繋がるので今後も継続して開催するよう要望する。

以上のことから、令和 2 年度については、新型コロナウイルス感染症の影響を大幅に受けており非常に困難な状況下での図書館運営となった一方で、創意工夫を重ね、感染症対策を行ったうえで企画事業を開催する等、コロナ禍における新しい図書館運営を行えたことは評価できる。

なお、主管課モニタリングにおける二次評価では、経営改革推進課の方針に基づき、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として中止した事業等を加味した評価により実施する。

また、休館による事業中止等の清算については、各種講座等の中止による講師謝礼金等が不用となったが、絵本の企画展示及び学校、各団体の作品展示を行った経費が生じ、これを相殺したため、戻入は生じないことを確認した。

(2) 課題

令和2年度に実施した板橋区立図書館指定管理者評価委員会において2点の「改善すべき事項」として企画事業の参加者数減の理由分析等の調査及び今後の対策及び家庭連携の実施方法検討が挙げられている。

この評価結果の改善に向け参加者の目線に立った実施時期、実施時間帯での開催、SNSを初めとした情報発信及び近隣施設との情報共有等を行う計画案が提出されている。

この計画案に基づき、改善を図るとともに、コロナ禍における図書館運営を着実に推進することが肝要である。

令和 2 年度板橋区立図書館（氷川・東板橋・小茂根図書館）事業報告概要  
中央図書館

指定管理者 ナカバヤシ株式会社東京本社

指定管理期間 平成 30 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日まで（5 年間）

管理施設名 氷川図書館、東板橋図書館、小茂根図書館

## 1. 管理業務運営体制

(1) 指定管理者担当部門 図書館ソリューション営業部

(2) 現場従業員

・雇用形態 契約社員・フルタイム・ショートタイム（館長・副館長・業務責任者・一般従事者）

(3) 組織・指示・命令系統

・図書館ソリューション営業部－館長－副館長－業務責任者－スタッフ

(4) 人員配置 ( ) 内は計画時の人数

雇用形態	氷 川	東板橋	小茂根
館 長	1 名(1 名)	1 名(1 名)	1 名(1 名)
副館長	2 名(2 名)	2 名(2 名)	2 名(2 名)
業務責任者	3 名(2 名)	3 名(2 名)	2 名(2 名)
一般従事者	16 名(15 名)	17 名(15 名)	16 名(15 名)
計	22 名(20 名)	23 名(20 名)	21 名(20 名)
司書の割合	54.5%	60.9%	57.1%

## 2. 入館・貸出状況

各館の入館者数・資料貸出点数は以下のとおりである。

図書館名	入館者（人）	前年比（％）	貸出数（点）	前年比（％）
氷 川	155,619	74.3%	231,878	98.3%
東板橋	156,118	75.8%	212,353	89.6%
小茂根	165,462	75.2%	228,568	93.8%

緊急事態宣言発出に伴う休館期間

令和 2 年 4 月 8 日～令和 2 年 5 月 27 日（50 日）

工事期間による臨時休館

氷川図書館 令和 3 年 2 月 14 日～令和 3 年 2 月 27 日（14 日）

東板橋図書館 令和 2 年 10 月 1 日～令和 2 年 11 月 1 日（32 日）

※東板橋図書館は、特別整理期間（令和 2 年 10 月 5 日～令和 2 年 10 月 10 日）含む。

## 3. 図書館事業の実施状況

おはなし会・映画会・学校連携事業・地域連携事業・展示を、図書館サービスとして実施した。

項目		氷 川		東板橋		小茂根	
おはなし会	R2	31 回	411 名	35 回	303 名	28 回	418 名
	R1	69 回	1,474 名	56 回	731 名	64 回	1,666 名
映画会	R2	12 回	148 名	10 回	123 名	11 回	130 名
	R1	18 回	368 名	19 回	258 名	22 回	281 名
学校連携	R2	13 校	38 回	7 校	78 回	8 校	59 回
	R1	10 校	49 回	9 校	119 回	8 校	98 回
地域連携	R2	23 施設	190 回	23 施設	76 回	24 施設	69 回
	R1	29 施設	167 回	32 施設	108 回	29 施設	187 回
展示	R2	89 回	4,027 点	103 回	3,870 点	94 回	6,399 点
	R1	106 回	4,255 点	135 回	3,218 点	101 回	5,584 点

※学校数、施設数は実数



参考画像：

左上：学校連携「図書委員会おすすめ本 POP 展示」（氷川）

右上：「あきのスペシャルおはなし会」（東板橋）

左下：展示「いたばしパパ月間」（小茂根）

## 4. 自主事業（読書推進・生涯学習等）の実施状況

図書館利用促進や生涯学習の機会の提供のため、図書館サービス以外に、様々な自主事業を実施した。

## (1) 図書館利用促進事業

事業計画・報告	氷 川	東板橋	小茂根
R02 事業計画	25 事業	24 事業	20 事業
R02 事業報告	24 事業 62 回 1,278 人	44 事業 71 回 2,328 人	24 事業 33 回 1,268 人

- ① 「ひかわんくらぶ」、「OPAC 講座」、「氷川短歌賞」ほか（氷川）
- ② 「太宰治と戦争」、「手作り乾電池教室」、「アマビエ&神社姫のぬり絵で新型コロナウイルス退散！」ほか（東板橋）
- ③ 「図書館カレー部 オリジナルスパイスをつくろう」、「こもねこからの挑戦状」、「太宰治生誕 111 年記念 ビブリオバトルと文学史トーク」ほか（小茂根）



## 参考画像

左上：「第五回 氷川短歌賞」（氷川）

右上：「太宰治と戦争」（東板橋）

左下：「図書館カレー部 オリジナルスパイスをつくろう」（小茂根）

## (2) インターネット閲覧サービス

- ・ポプラディアネット：児童向け百科事典データベース

実施館：氷川・東板橋・小茂根

- ・聞蔵Ⅱ：朝日新聞記事検索・閲覧データベース

実施館：氷川・東板橋・小茂根

・官報情報検索サービス：国立印刷局が提供する官報情報を検索・閲覧できるデータベース

実施館：氷川

・D1-Law 第一法規法情報総合データベース：法令、判例、文献情報を閲覧できるデータベース

実施館：氷川（中央図書館休館期間中）

・日経テレコン 21：日本経済新聞社が提供する企業情報や人物情報が利用できるデータベース

実施館：小茂根（中央図書館休館期間中）

	氷 川	東板橋	小茂根
インターネット閲覧サービス 利用数（前年実績）	1,216 件 (2,185 件)	1,036 件 (1,947 件)	1,232 件 (3,013 件)

#### 6. いたばしBORONIA子ども絵本館の資料活用

(1) 氷川：「三辺律子さん翻訳本」7月1日（水）～30日（木）

(2) 東板橋：「ミニミニ・BORONIA」8月1日（土）～10日（月）

(3) 小茂根：「雨」6月16日（火）～29日（月）、「星」7月1日（水）～15日（水）、「夏」7月16日（木）～30日（木）、「太陽」8月1日（土）～15日（土）「海」8月16日（日）～28日（金）



参考画像：左：「おはなし Twinkle の英語おはなし会」（氷川）

右：「ミニ・BORONIAブックフェア in こもね」（小茂根）



## 7. 収支状況

光熱水費・廃棄物量の削減に努め、施設管理経費を縮減した。

月給制度への転換を含む待遇向上に努めたこと、臨時休館期間中及び氷川図書館・東板橋図書館における長期休館期間中において内部業務やレイアウト変更等、休館時にしか行えない業務の実施に努め、ほぼ通常通りの勤務体制で運営を行ったことにより人件費が予算を上回った。

## 収入

項 目	2 年度予算額	決算額
指定管理料	円	円
インターネット閲覧サービス プリントサービス料	円	円
対価の徴収を伴う事業収入	円	円
古紙回収料に伴う収入	円	円
収入 計	円	円

## 支出

項 目	2 年度予算額	決算額
管理運営経費	人件費	円
	施設管理経費	円
	企画事業費	円
	事務諸経費	円
清算経費	特色ある図書館づくりの資料購入費	円
	逐次刊行物・視聴覚資料・紙芝居等の資料購入費	円
	地域連携費	円
	修繕・工事費	円
	備品購入費	円
合 計		円

## 差引

項 目	2 年度予算額	決算額
利益	円	円

※利益等の内訳については株主総会後に確定する。

## 8. 令和2年度重点目標への取り組み

## (1) 「絵本のまち板橋」のイメージを図書館から地域に根付かせる取組

## 【絵本をテーマにしたイベントの実施】

各館で絵本への親しみを深めるイベントを積極的に実施した。

氷川図書館では、「いたばし国際絵本翻訳大賞」に関連した絵本翻訳講座を3回にわたって実施した。

東板橋図書館でも中学生向けに実施していた英語絵本翻訳講座の対象を、新1年生（小学6年生）にした。英語授業の導入として、また、英語絵本に興味を持つことでボローニャ絵本翻訳大賞への応募に繋げることを目的とした。

小茂根図書館では、翻訳家を招いた講演会を新規で実施した。絵本をテーマにしたボードゲーム体験会は延期となり次年度に実施する予定である。

子どもだけでなくその親世代にも愛着を持ってもらえるような内容で、「絵本のまち板橋」の定着に取り組んだ。関連イベントのポスターや図書館だよりには「絵本のまち板橋」のロゴを入れ、周知を徹底した。

赤ちゃんおはなし会や絵本キャラクターの着ぐるみが登場するおはなし会など幼児向けのイベントは実施に至らなかったものの、各館で「絵本翻訳講座」イベント関連展示や、一般向けに「絵本を学ぶ」展示を実施し、子どもたちだけでなく大人も絵本の世界に触れることができる機会を提供した。東板橋図書館では家庭読書の継続啓蒙や絵本のSNS配信など、自宅で楽しんでもらえるコンテンツ作成に転換した。

## 【絵本のサービスサインの着用】

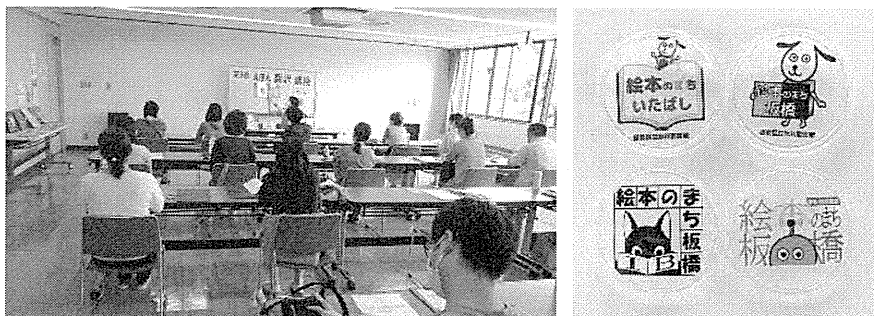
声をかけやすい雰囲気づくりのため職員が着用している「レファレンスサービスサインバッジ」に加え、各図書館のキャラクターが入った「絵本のまち板橋」バッジを作成し、中央図書館開館のタイミングに合わせて着用した。HPやSNSでも同時に告知することで、より多くの方にこの取組を周知した。

## 【図書館外への発信】

館内だけでなく、地域連携事業や情報発信において「絵本のまち板橋」をアピールした。インスタグラムを活用し、絵本に関する情報をより広く周知したほか、絵本の展示や関連イベントについてSNSで投稿する際には、「#（ハッシュタグ）絵本のまち板橋」を付けて告知することで、積極的にアピールした。

氷川図書館では、地域施設での出張図書館において絵本を展示し、普段図書館に来館しない未利用者に対して、絵本に親しんでもらえる機会を創出した。

また、板橋区のシティプロモーションページで、アニメーションや英語おはなし会、出張図書館等の特色ある取組が「氷川図書館ストーリー」として紹介された。



左：「絵本翻訳講座」（氷川） 右：「絵本のまち板橋バッジ」着用（各館）

## （２）東京 2020 オリンピック・パラリンピックを区民へ記録、記憶に残す取組

### 【企画展示の設置及び強化】

オリンピック・パラリンピック関連資料を積極的に選書し、展示を通じて資料のアピールにつなげた。競技だけでなく、ボランティアなどの関連テーマを含む多角的な内容で利用者の興味関心に応えた。さらに、板橋区がイタリアバレーボールチームを支援することに合わせて、各館でのいたばしボローニャ子ども絵本館資料の展示など、イタリアに関連した資料展示を行った。小茂根図書館では前回の東京オリンピックの際の写真パネルを借り受け、館内で展示を行い 159 人の閲覧があった。延期せざるを得ないイベントが多かった中で、東板橋図書館ではオリパラ講演会「みえないってどんなこと？障がい者との交流体験」を実施し 8 人の参加があった。感染症対策の影響もあり参加人数は多くはなかったが好評だった。次年度は、より多くの方に参加いただけるよう、SNS 等も活用しながらより幅広い層へアプローチする。

### 【競技をテーマにしたパスファインダーの設置】

各館において、オリンピック・パラリンピック競技などをテーマにしたパスファインダーを作成し、設置した。事前に競技や大会への理解を深めることで、利用者が東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会をより楽しめるよう支援した。

### 【図書館ヒーローのデビューによるスポーツへの興味喚起】

東板橋図書館では、スポーツと健康という特色ある資料を活かし、東京 2020 公認プログラム認証事業として実施した実績もある地元プロレス団体との協働企画を継続して行った。これまでは図書館内でのキッズプロレス体験教室やプロレスおはなし会等の事業を行ってきたが、今年度は図書館外での事業連携を強化した。平成 31 年度から小学生以下を対象にマスクデザイ

ンを募集した「図書館ヒーロー《としょカーン》」が実際にプロレスラーとしてデビューしたことで、スポーツへの興味を喚起し、大会への機運醸成につながった。



左：たたかう図書館ヒーロー「としょカーン」デビュー（東板橋）

右：公文書館パネル展示「聖火、板橋を駆ける」（小茂根）

（3）図書館の最新の資料情報、地域や学校との連携、魅力的な取組をHPだけでなくSNSにより適時、実効的な発信

#### 【資料展示や地域や学校との連携の発信】

毎月の資料展示や図書館事業についてHP及びSNSで積極的に周知を行った。氷川図書館では、HPで館内すべての展示の紹介を毎月行ったほか、出張図書館の様子をインスタグラムで発信した。小中学校の図書委員会と連携したおすすめ本の選書とPOP作成を館内で展示し、その様子をHPで紹介した。

東板橋図書館は新たな学校連携として、HP上で板橋第五中学校と加賀中学校の学校図書室を紹介した。また、インスタグラムアカウントを新設し、板橋こども動物園との連携事業などの周知に活用した。

小茂根図書館は臨時休館中に本来実施予定だった資料展示のブックリストをHP上で公開した。また、「図書委員さんのおすすめ本」展示など学校連携の様子もHP及びSNSで周知した。インスタグラムでの絵本に関する投稿の反響は大きく、「人気絵本作家特集」や板橋区立美術館での「だれも知らないレオ・レオーニ展」に合わせて行った特集展示が特に好評だった。

また、3館それぞれで「#絵本のまち板橋」をつけて投稿することで、板橋区の図書館事業についても効率的にアピールした。

#### 【HPの改良による利便性の強化】

HPをより多くの人が利用しやすいものになるよう、職員間での意見交換を基に、利用者がより見やすく使いやすい内容に改良した。具体的には、「重要なお知らせ」欄を新設し、臨時休館など目立たせたい情報がページの上部に来るようにしたほか、3館ともインスタグラムアカウントを開設したこと

に伴い、Facebook だけでなく各館のInstagramアカウントへ移動できるようにし、SNSとの連動を強化した。

さらに、緊急事態宣言による休館期間中には、この時期だからこそできる図書館ならではの情報を発信し区民の生涯学習活動に寄り添うことに注力した。具体的にはブックリストや塗り絵の公開、「読み聞かせ」、「本を作ってみよう」、「5 分間マスク作りにチャレンジ」動画など幅広いコンテンツを積極的に配信した。東板橋図書館では、学校図書室の紹介動画をHP上に掲載し、WEB上での連携を実践した。

### 【SNSの新設及びキャラクターの活用】

平成 31 年度から氷川図書館・小茂根図書館においてInstagramのアカウントを新たに開設し、より幅広い層への情報発信に努めている。東板橋図書館においても新規にアカウントを開設し、地域連携事業や館内でのイベントを公開した。展示などの写真に加え、イベントや館内の利用方法の紹介に動画も活用して発信した。また、3 館それぞれが相互にフォローし合うことで、他館の取組が即時に共有され、相乗効果が創出された。そのほか、全国ネットのテレビや板橋経済新聞、NHKの海外向け番組などメディアの取材依頼が増加したのも、SNSでの発信の効果が大きいと分析している。

さらに、小茂根図書館では図書館マスコットのぬいぐるみを作成し、図書館内外でのイベント紹介に活用することで親しみやすい図書館づくりに取り組んだ。



左：HP「重要なお知らせ欄」、「SNS ボタン」の新設（各館）

右：Instagram「こもねこ」の活用（小茂根）



## 9. 指定管理者の自己評価

指定管理者としての運営が3年目となり、図書館業務を確実に履行することに加えて、新規事業や地域連携の強化に取り組んだ。

子どもの読書活動推進に関しては、新たな学校連携を積極的に実施した。氷川図書館では、学校へ訪問できない期間に図書委員へのアンケートを実施することで連携を図った。おすすめ本の選書とPOP作成を依頼し、館内で展示する双方向型の連携を行った。東板橋図書館はHP上で板橋第五中学校と加賀中学校の学校図書室を紹介した。小茂根図書館は例年実施している「図書委員さんのおすすめ本」展示に加えて、桜川小学校の「ことわざ本」を学習成果の展示として館内で紹介した。また、「絵本翻訳講座」を3館それぞれで実施し、氷川図書館及び小茂根図書館ではそれぞれ15名以上の参加があり好評だった。東板橋図書館では対象を新中学生に限定したことで、積極的に参加しやすい雰囲気で行うことができた。また、イベントごとに関連図書を展示し、図書資料の利用促進に取り組んだ。新中央図書館開館時には、各館のキャラクターをモチーフにした「絵本のまち板橋」バッジを作成し、全スタッフが着用することで「絵本のまち板橋」の定着を図った。

地域連携への取り組みとして、東板橋図書館で初年度から実施している「いたばしプロレスリング」との協働事業では、昨年度100件以上の応募があった図書館ヒーロー「としょカーン」のマスクデザインから1つを選び、実際にプロレスラーとしてデビューするなど、さらに連携の幅を広げた。氷川図書館では、「出張図書館」において新たに地域2カ所の飲食店（11-1Studio、おむすびファームモノクロ）を連携先として増やすことで、図書館から地域に出るアウトリーチ型の事業を強化した。小茂根図書館では、板橋区からパネルを拝借し館内に資料と一緒に展示することで、利用者へ板橋区の事業やイベントについて知る機会を提供した。たとえば、「パパ月間」展示として、10月の板橋パパ月間に合わせ、板橋区男女社会参画課からパネルを借用し、関連資料と共に展示した。さらに、中止となったいたばし花火大会の前年度の様子を収めた花火写真のパネル、ドローンによる空撮動画、実際の花火の15号玉レプリカをくらしと観光課より借受けて展示した「図書館花火鑑賞会」を新規で実施し、148人の閲覧があった。

情報発信においては、ホームページやFacebookに加え、東板橋図書館でもInstagramのアカウントを新たに開設した。3館がそれぞれに事業の紹介を積極的に行うことでメディアの取材が増加するなど図書館事業を幅広く周知することにつながっただけでなく、取組を迅速に共有することで相乗効果が生まれた。また、展示やイベントだけでなく感染症への対応や臨時休館中の清掃風景など、即時性のある情報発信により安心してご来館いただける環境を整えた。

このようにSNSや地域連携の強化により、図書館未利用者への認知向上を図り、新中央図書館との連携を通じて地域全体の生涯学習活動を促進していきたい。

## 10. 中央図書館の評価

## (1) 評価

新型コロナウイルス感染拡大防止を目的とした緊急事態宣言の発出による休館のため、年間開館日数が氷川 269 日（当初予定比 80.3%）、東板橋 257 日（当初予定比 76.72%）、小茂根 280 日（当初予定比 83.58%）、と大幅に減少している。このことに伴い、入館者数、貸出し利用者及び貸出点数等も大幅に減少している。

入館者数、貸出利用者数及び貸出点数の目標値をそれぞれ開館日数の当初予定比で乗じて改めて実績と比較（休館を加味した評価）してみると入館者数は大幅に減少しているものの、貸出利用者数については氷川図書館・小茂根図書館は目標値を上回る実績となっている。また、貸出点数については氷川図書館・東板橋図書館・小茂根図書館の 3 館とも目標値を上回る実績となっている。

休館を加味しても入館者数が目標に大きく届かない要因として新聞・週刊誌等の閲覧不可及及び閲覧席を減少しての開館等したことが考えられる一方、貸出利用者数及び貸出点数は入館者数ほどの減少とならなかった要因は、コロナ禍における外出自粛要請等により家庭での読書が定着したことが要因と考えられる。

事業・サービス面を見ると、映画会、お話し会等は、事業開催を中止した期間が長く開催回数、参加者数は軒並み目標値を大きく下回っているが、展示は「パパ月間」展示として 10 月の板橋パパ月間に合わせ、板橋区男女社会参画課からパネルを借用し関連資料と共に展示するなど、目標値を上回る回数実施して、資料の利用促進に努めた。

また、情報発信において、ホームページや Facebook に加え、東板橋図書館でインスタグラムのアカウントを新たに開設したことで、3 館がそれぞれに事業を展示などの写真に加え動画を活用し、図書館事業を幅広く積極的に周知した。

学校連携においては、おすすめ本の選書と POP 作成を依頼し、館内で展示する双方向型の連携を行った。東板橋図書館では HP 上で板橋第五中学校と加賀中学校の学校図書室を紹介した。小茂根図書館では例年実施している「図書委員さんのおすすめ本」展示に加えて、桜川小学校の「ことわざ本」を学習成果の展示として館内で紹介した。

地域連携においては、氷川図書館が「出張図書館」を新たに地域 2 カ所の飲食店（11-1Studio、おむすびファームモノクロ）で実施した。また、小茂根図書館では、板橋区からパネルを拝借し館内に資料と一緒に展示した。

以上のことから、令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響を大幅に受けており非常に困難な状況下での図書館運営となった一方で、動画の配信など来館を要しない事業の実施など、創意工夫を重ねたコロナ禍における新しい図書館運営を行えたことは評価できる。

なお、主管課モニタリングにおける二次評価では、経営改革推進課の方針に基づき、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として中止した事業等を加味した評価により実施する。

また、休館による事業中止等の清算については、各種講座等の中止による講師謝礼金等が不用となったが、イベント会場の環境整備や展示を拡大して行った経費が生じ、これを相殺したため、戻入は生じないことを確認した。

## (2) 課題

令和2年度に実施した板橋区立図書館指定管理者評価委員会において2点の「改善すべき事項」として、調べる学習支援事業や図書委員連携などの取組の充実及びHPの改善・SNSによる発信の強化が挙げられている。

この評価結果の改善に向け、全対象校へ訪問しての協議、アンケート等を活用した相互連絡の強化、図書委員会以外の部活動等との連携の提案、学校図書館を各図書館HPを通じて紹介する、Instagramの活用、HPのデザインや利便性について定期的な改修を実施する計画案が提出されている。

この計画案に基づき、改善を図るとともに、コロナ禍における図書館運営を着実に推進することが肝要である。